

各 位

党派を超えて国家的課題を追求する
公益財団法人 協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部部长 吉 田 英 法
専務理事兼事務局長 清原 淳平

交通部会のお知らせ (第236回)

日 時 平成28年2月25日(木) 午後1時半～3時半
場 所 参議院議員会館 地下1階 B102会議室
千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、
永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。そ
の時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにて
お待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「B102
会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の交通事故情勢について想う
挨拶 吉田英法部部长(元警察庁関東管区警察局長)
 - 2、**軽井沢バス事故の発生について**
 - 3、**平成27年中の暴走族の動向及び検挙状況等について**
 - 4、交通事故統計(1月中及び2月24日まで)
解説 警察庁交通企画課中嶋正浩課長補佐(警視)

報 告

去る1月26日開催の第235回交通部会は、吉田英法部部长が議長を務め行われました。まず、吉田部部长より、「昨年の交通事故情勢を振り返り、本年に期待する交通事故対策について」と題して開会挨拶がありました。昨年は、残念ながら死者数が前年比で増加に転じてしまった。第9次交通安全基本計画に掲げる死者数3千人以下には及ばず、本年4月から実施される第10次交通安全基本計画ではどのような数字が掲げられるかはまだわからないが、期間中には東京オリンピックがあり、交通量も増加すると見込まれる。3千人台もまだ達成できていない現在の情勢下で、本年も引き続き知恵を絞って、事故死者減少に向けた取組を推進していきたい。

次に、警察庁交通局交通企画課中嶋正浩課長補佐（警視）より、「平成 27 年中の交通事故死者数について」解説がありました。24 時間以内の死者数は、4117 人で、前年比 4 人の増と、15 年ぶりに増加した。うち高齢者は 2247 人で、前年比 54 人の増、構成比も 54.6% と過去最高となった。最少は 6 月の 287（1 日当たり 9.6）人、最多は 12 月の 443（1 日当たり 14.3 人）である。飲酒事故死者数は 203 人で前年比 24 人減となった。第 9 次交通安全基本計画に掲げられた目標のうち、平成 27 年中に死傷者数 70 万人以下は達成できる見込みだが、死者数 3 千人以下は不達成となった。

次に、「交通事故統計」について説明がありました。1 月 25 日（部会前日）までの事故死者数は、289 人で前年比 7 人の増となった。うち高齢者は 165 人で、5 人の減となっている。

解説の後、委員一同にて盛んな意見交換がありました。○軽井沢での高速バス 15 人死亡事故は、大型バスの運転経験が乏しく、運行管理もおろそかであったと伝えられている。事故の原因検証は警察が行うが、バス業の監督は国交省の役割である。○若者の車離れの影響は、バス、タクシーを含めた公共交通全体の運転手の高齢化につながっている。需要が減ったため、大型免許を取得できる教習所も減りつつある。○運転手の数が減れば、夜中の運転を高齢運転手が行うことになり、体力や視野の低下によって事故のリスクは増える。関越道の事故を教訓に交代運転手を同乗させることが義務付けられたとはいえ、安全性には疑問符が付く。○出会い頭の事故と違って、追突事故を一度起こした運転手は度々似たような事故を起こす傾向にある、とのデータがある。○小学生が観光バスを利用しているのを見ると、引率の教員が非常口の近くにいないのが目につく。万が一事故が起きたら誰が対応するのか。

2 月 25 日（木）の交通部会（参）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名

貴方様の F A X

電話

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> E メール kiyohara@jidaisassin.jp